

水田野菜定植作業の省力化を実証

大津・南部農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

本県の転作作物は麦や大豆が主で露地野菜は多くありませんでしたが、地産地消の意識の高まりの中で県内産野菜へのニーズが高まっています。

そのため、当課では水田へのキャベツ等露地野菜の作付けを進めていますが、作業強度の軽減や労働時間の短縮のために定植作業の機械化が不可欠となっていました。そこで、当課も協力して湖南地域農業センター園芸特産班の主催で機械化研修会を実施しました。

【普及活動の成果】

平成 22 年 9 月 11 日に守山市洲本町の開発営農組合のほ場において、キャベツ、ブロッコリー、はくさいの機械定植実演会を実施しました。また実演に先立って、キャベツ等の経営収支も資料で説明しました。実証展示した機械は、野菜移植機（半自動タイプ往復 2 条植）と畦立て成形機の 2 種類です。

班員の反応は上々で、ぜひ他市でも実演会を開催して欲しいとの反響を得ました。



野菜移植機で研修する参加者



畦立て成形機の実演

この結果、次年度には管内 2 ヶ所で野菜移植機が導入され、水田野菜の拡大に活用される見込みです。

当課としても、特に集落営農での野菜の機械化栽培を拡大するよう、このような実演会を通して、水田野菜を推進していきたいと考えています。